

すずむし

1
1951年1月
倉敷昆虫同好会

創刊号

倉敷昆虫同好会の発足を祝つて

深谷昌次



私は郷里の高等学校に在学していた頃、同好の青少年と共に昆虫同好会を作り盛んに採集をして廻ったものである。皆熱心で誰せが将来昆虫学者になふもりだつた。所がそれから20年近くを経過した今日同好の士の中で虫を本職とするものといえば私位のものでおとくは銀行屋さんだの医者さん等になつてしまつた。その同好会は3~4年續いて絶えてしまつたがこの間何人かの人々が自然に親しむ機会を持つたということは幸いだつたと思う。

今度倉敷に出来た同好会は皆で協力して是非とも永續させたい。そして一人でも多く虫を愛好する士を世に送り出すよう願ひ止まない。この会の会員中には既に社会的地位の固まつている人々もあるので、かつて私達が作った会と違い必ずしもり豊かな成果を收め未広がりに發展するものと期待している。

倉敷昆虫同好会に就いて

20. I. 1951

山川東平

倉敷昆虫同好会はその名の示すように倉敷市を中心とした昆虫の同好者によつて組織されています。そして多くのこうした会に見られる一人または少數のリーダーによつて特色づけられたファッショ

的団体とは趣きを異にし、一人の研究者が集つて互に便宜を講り知識を交換し研究業績を累積していく場として生まれたものであります。この会の生まれるにあたっては、薪はなげこまれていたとはいえこれに火を付ける勞をとられた青野、小野白神、友野他8氏に対しては感謝のほどありません。どうか会員一同の力で今羽化したばかりのこの会を立派に美く成長させたいものだ。

2・3 昆虫の旅

青野孝昭

昆虫、特に僕達が子供時代に良い、悪い相手になるものには、地方地方で同じ種のものに対しても異なった名が付けられているものである。蠍地獄の地名は柳田国男氏により日本各地のものが良く開拓されていながら、クリ様は懇意な研究家が又何時か色々な地に入り、広く日本各地の方苦を細べられたことがわかるだとう。そう云う時に自分の郷土のものが資料不足から取扱われていて、何か一知りの物足りないを感じる。自分が生まれ現在立育つたこの宿敵の昆虫で子供は良く親しみたいもののが毎年夏にここに書き留めて置こうと思う。

子供に最も親しみたいのは何と云つても夏の昆虫であろう。雖然な太陽の下、飛行トノサマバッタを追ひ、エノマコオロギを探し、この類狂鶯の蝶、想出は盡きないけれどもこれ等の一つひとつは僕達は知らぬ事がある。トノサマバッタもクルマバッタも唯バッタと呼び、又エノマコオロギも他のコオロギもロウコウコロウと呼んだが、しかしショウジョウバッタは此種をハタオリヌヌハタハタ雄をそれがキキキキと音を立て、雌がどこから音を立てばんだ。酒沼へ行くとキリギリスが居てそこへ行くのは僕にとって大変樂しいものだつた。キリギリスは鳴声がケヨンギスと云つた。モノモロコシにはひどく嗜みつくので恐ろしくて音が出來ず常に取て置いたいたものである。ズズムシシャヤツムシも父にせがんで飼ひて置いたがこれらは只屋で叫んでいる通の呼び名で、別に取上げる程もない。今方静かにその鳴声に聞き入り、時の経つを忘れただが、日が暮れると電燈を點て色々な昆虫が集まって来たがそれ等の中にはビービーと叫んだドウガホダイブイが目立つていた。トンボ類も子供と称する程いでのうが、ナリアキネミボニトンボ、ハグロトンボをカツキ、ズンバ

ンツも唯ヤンマと呼んだ。ワキガヒキから蝶取りを始めた。道筋の子供達と一緒に行くのである。世の間の如く最初から捕獲だらけ、年上の子供達が捕獲もち平て早く蝶を取るよりしなり見えたがつたのだ。それが小学校五年生と自分と自分以下の子供を連れて蝶取りに行く様になる。セタ様がすむし普通の家庭では行を川へ流していくが僕達はそれを蝶坂半山にしたのである。だからセタ様はそう云う悲味でも待ち遠しかった。暮の日には汗を流してボラモチ蝶を痛い順位移動山へも行つた。鶴形山へ行くにはかなり距離もあり、又山では蝶を岐れを飛ばれだ。レガレ蝶取りの様で、その魅力が他の障害よりも並ぶに勝ついたのである。蝶では大きさと透明なクマゼニガ一滴墨があつた。シャーシャーと叫ぶそれがどう取れた時には非常ルミ端を感じ、順位に同じ年頃の子供を見ると蝶をゆすぶりわざと叫かれていた。アブランゼミはアトリ、ニーコーゼミをチーナーと云つた。この二種は虫かごが黒くて蝶取れた。蝶は多くの特徴を知らないが、暑い日の午後道端に打水もした後寧よとアゲハナヨウが飛んで来たがこれをオフリキアラナウと叫び見付けて直ぐ網をひっさげて追つていた。水面にはオドミズスマシやアメンボが居て何時迄も僕達の日を樂しまれて焼け花才前着セトメークンコン、後着をゴーカイロ呼んだ。

僕が小学校一歳は並んが僕達は多思ひ出せるものをさくと書くとこの位だ。こういつれ地方独特の呼名が小さい子供達が而て次々と傳えられ、自分が現在の子供達が同じ呼び名で叫んでいるのを聞くにつけてあの頃の自分が思ひ返されて懐しいものである。(1951.7.19 記)



★カミキリの飼育について★ 友野良一



一昨年? 鶴形山の森、木で
カミキリの幼虫を取つた。これ飼
育しようと思ひ、木と柴に持て歸
つた、これはさておいたらはい出て
しまうので「新昆虫」に書いてあつ
た1コ1大で飼育しようと思ひ、木を1コで
引き棒30cm長さ15cm位のビンへ1
コ1大を少し入れその中に幼虫又1コ1大
を入れ少し水でしめて、ふたをしておいた
次日見ると食べているのでそのままにして
食べさせ、だけ次いでやつた、これでは乾燥

するので水で時々次の日に2回位水
になつたそれから1ヶ月経してナガゴマフ
カミキリが出来た、僕の場合は1コ1大を
を作つたのが松葉の瓶に標本所
に行けばいくうどある標本の貯蔵庫
であれば、簡単に行くと思う、又この方法
ではビンでわかるので中を出さずに重複
出来ない利点もあると思う。一匹だけの
飼育ではよくわからないがこの方法で
も飼育が出来そうなのでお知らせしま
す。

●アサギマダラ

昔の事は知らないが、この蝶は
友野牧場(信濃東中学校2年生
)が鶴形山で採集して来て最初の
目を見張らせたのが最初である
(1949年10月16日)。翌年私は
福山での優等を証めた。ところが昨年、尾崎年志君(信濃
東小学校6年生)が日高福島
山で採集したのを初めとして、同若の軒先を
駆け入り、附屋や学校の玄関脇等の桜
風呂で見つけられる蝶、客室にて剥合多く
なつた。又尾崎君はその福島山で2-
3匹見たといつてある。しかしこの蝶は平地で
は飛翔が出来ないので知らぬが私の見聞
の中には10月以後のものばかりである。
(白神昭)

●アサギマダラ倉敷産地追加

1951.1.19

アサギマダラの倉敷附近の奥地としては
鶴形山及び福山、備江等が記録されているが1950年9月23日倉敷附近黒田に
於て原志君(中学生)1頭(♀)を採集した。また同じく1950年10月8日同所に於て原志君は本郷早稲田1頭を採
集したのでここに倉敷附近アサギマダラ新
産地として黒田をあげておく。

なお本種を上記福山に於ても1950年10
月8日に撮めたので確認する。(松浦義躬)

●電燈に飛来した アカタテハ

12月16日7時頃1匹のア
カタテハ子が局間の電燈に
飛来した元源おう盛で万が
厚木市前えきせばかづとほか
のアカタテハが飛来している程度である
アカタテハが冬期1ヶ令を燈火に飛来したと言う
ことは少くない事なので報告しておく。その日は二所ある城口もあけられていた。万が
そのアカタテハはまだ1月一箇月をへた令を
生きているという事を記録する。(小野悦夫)

●モンシロチョウ燈火に飛来す

蝶が燈火へ飛来することは多くの日暮
者により手引の分量に亘って報告されてゐる
が、こに筆者自身が目撲し得たものを報告
する。1949年11月8日。時午後7時55分
。あたりは夕闇に包まれか、飛いたが、但
尾隨下の電燈にモンシロチョウ子が飛
来して来た。かなり飛びちらした個体だ
った。標本等を保存。(青野春昭)

●鶴形山公園で飛れ込ミナガシ

1949年の8月29日、最初白神君が鏡
羽根のアカモの樹根を啄食する各種
を発見し近隣に飛来した。翌日私は同所へ行つて見た。その際

偶然にも再びそこには蝶の姿を見た。脚は少し短く、可也破れてしまつたが、おそらくこれは成蝶では最初のもので、珍らしいことじる石面にその後成蝶層が一個体、やはり同所で捕獲した。だがこれらの発生地が10月に成蝶だからどうか疑問である。

●蝶3題 (小野洋)

クロツバメシジミは岐阜県に多いそうであるが、当省ではあまり多くないというほどではない。福山に少數山鷹形山の南側で少々見出される。

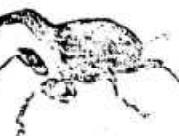
オナガアゲハは現在遅年敷地方では採集されてもようがかい様であった。本種は山地に多いものであるが、昨年9月18日私は福山のカラタチで本種の幼虫を一匹採集、飼育の結果、昨年11月25日見事に羽化した。

イケモソシキヨウも山地には多いものであるが平地である倉敷では少々珍しい。1948年あたりから北部山地(黒田、福山等)で本種を見たようになり、1949年には1個体採集(吉野君)これが出来たが、昨年は可也多く発生し、又採集されたようである。(小野洋)

●モンキアゲハ倉敷に産す

南方系の鳳蝶として知られる分布は海岸沿いの曠地に限られている。モンキアゲハ *Papilio helenus nicollonicensis* BUTLER は従来倉敷地方には記録が多く、しかも成蝶は七都の阿倍峠に在しまた近傍の天城、鬼岳等でも記録されおり、壁面も不思議に思つて居たが先当地方に於ても本種も2回にわたり2頭を採集すれば目撃したのでここに報告する。

① 1950年8月9日倉敷附近黒田伯備線鉄道附近に於てクサギの花にたわむれた本種夏型早1頭を発見採集した。個体は両翅共に尾状突起吹き不完全であった。標本は壁面が所蔵して居る。



② 1950年9月23日笠井が山手村福山に於て朝霧中の新鮮な含早?不明の1個体を目撃した。うでふる(1951.1.19)(広瀬義祐)

●シメコウアゲハの一産地 消滅

倉敷ではよく知られている本種の発生地が数ヶ所ある。

本種は他のアゲハと比較して採集が易くその発生地へ行けばより玉と丸に成虫も容易に採集出来る。

これらの採集地の平野江川附近の山と河谷小川や坂附丘陵に有り、たゞが横瀬付近にすばらしい干柿林観察地であつた。ところが昨年から運動施設工事で、その前駆側の垣根にカラタチと共にあつたウマノスズクサは隣側には伸びた運動場につぶされ、運営もカラタチと共に、続々と失なれて絶滅したのである。最も近くの絶滅する個所を失つてしまつた。實に惜しいべき事だ。(小野洋)

●セグロツバカムシの卵保護

卵を保護するカムシは岱口で今日追跡記録のあるものはモンキツバカムシ(矢野、1926、長谷川、1948)と、ヒツツバカムシ(柴谷、1949)(新潟虫誌、Vol. 2, No. 4)だけであると思う。私はヒツツバカムシ(*Elaemucha putoni* SCOTT)と同属のセグロツバカムシ(*E. ferrugata* (FABRICIUS))に於てこの習性があることを発見した。即ち1950年7月25日に鳥取県大山の太田山附近である極端(強急勾角)の崖表はが葉裏に産下された卵の上に成虫の寄生しているのが3頭見つけた。これを成虫収容槽に入れて持ち帰った時、すでに一部は孵化していた。他の2群も繽々と孵化して来たが、湿度不足のためか、孵化しないのみで、死んでしまつた。又成虫はその後数日で死んでしまつた。

卵は、球横円形で、頂上が少し切り取られた底面型である。壳は麻様色、約0.5mmから1mmは、葉巻のコロ個、葉巻に34個、35個、この際の母虫の行動等に因しては僅か3個体に過ぎず、且く観察も出来ず幼虫も稚してしまったが、一応この発育後の觀察の機会を得た。(白神 昭)

◎倉敷に於ける近年のタカサゴシロカミカリ

本種は長い角状角を持ちおり特徴その姿は非常によくスマートで優雅たるものである。1949年、倉敷市平田の黒田で初見の頃即ち6月5日に1個体、6月23日に1個体を採集した。又昨年は岩村君が俄新田中の2個体を得ている。なお本種は大原農研の標光壁に時折、飛来することである。(小野 洋)

◎ヒラタツヤコミムシダマシ

/schrodactyloripes LEWIS

これは Lewis が Oyayama で 3頭を採り、中根猛彦が背面と頭を採りて以本記録がなされた。(新昆書 Vol. 1, No. 830)

私は、新昆書の中根氏の図及び説明から明かにこの種と思われるもう一頭を採集した。それは鹿島動山の松の幹に寄生していたヒトクナタケ *Cryptoporus volvatus* をカナトゴミムシダマシと一緒に噛っていた(24-IX, 1950)。

尚、当日やはりヒトクナタケから ナガニデゴミムシダマシ、オオコクヌスト、ゴミムシダマシ幼虫一種等を得た。(白神 昭)

◎黒田附近の甲虫 3題

黒田附近は、その樹木の種類の豊富から昆蟲も比較的多く、や、蝶等はどこかには種々山地性のものも見付かるし、カガハ方面、1場所であるが、昨年はひでカヌイテントウ、ラミーカミカリが多く発生した。又 1948 年 5 月 2 日 酒津に近い場所のヒトクナタケがよく発育し、またエノキの下側面の竹ヤゲでハイイロアハズカミカリを採つた。(小野 洋)

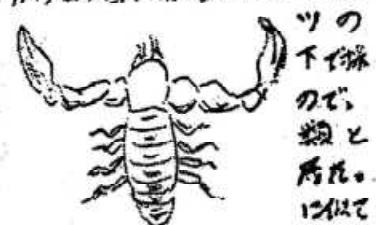


◎シオカラトンボがモンクロコウを捕う

1948年6月19日、薄雲。倉敷市若松町に於て午後3時頃であったが各の端を一匹のモンクロコウが驚きに倒んでいた。するとそれも目掛けて一直線に飛び去り、そこには倒れたトンボがあつた。筆者等は跡上を歩いていたが、この手影を見て止ってしまった。その後で私が或は驚きながらそのトンボはモンクロコウを口から、それを足踏みしていたのである。が、次して地上に止まってしまった。そのトンボは雌雄の甲壳型の色彩を備えたのであつた。(青野季昭)

◎クロマツの樹皮下に居るニムシ

昆蟲ではないけれども、去る1月15日の成人の日、倉敷市平田のクロマツ



おり皮を剥いた時、突然、赤い、とも恐ろしきハサミミソリが飛び出るので見えた。このニムシはナガニデゴミムシだつた。ハサミはザリガニのそれに似てあり、その触肢でもって餌ピンの中で商人は食物をさがして食べている。現在でもまだピンで止めており、ハサミの形が残っている。(小野 洋)

編集後記
さきが倉敷市若松町の貴重な植物によつて驚くべき植物栽培技術が示されたことを機縁に開催しておられた。又結婚式の祝酒の席で、私の名前には「貴重の植物の名前」とされたのです。岸川君の名前は「植物栽培」で木といふ。筆者の名前は「植物栽培」で木といふ。

★倉敷昆虫同好会会員住所録 ★(1)

会員番号 氏名

- 1 青野孝昭
- 2 阿部 智
- 3 小野悦夫
- 4 小野 洋
- 5 近藤光宏
- 6 佐々木 優
- 7 白神 昭
- 8 友野良一
- 9 広瀬義躬
- 10 森下光雄
- 11 山川東平
- 12 山本智範

役員の方 (1951年1月現在) 顧問の先生

代表者 山川東平

倉敷市大原農業研究所

編輯係 青野孝昭
山川東平
白神 昭
友野 良一
小野 洋

農学博士 深谷昌次

昭和26年1月22日印刷 すずめし
昭和26年1月23日発行 小野

編輯兼発行人 吉野、山川、白神、友野
印刷 小野
発行所 新川町倉敷西小学校理財部
非賣品 会員配付

会計係 友野良一

連絡係 青野孝昭